



下田 知行（しもだ ともゆき）

一橋大学国際・公共政策大学院特任教授
元・日本銀行企画局審議役
元・国際通貨基金（IMF）日本代表理事代理

メール：contact@tshimoda.jp
HP：<https://researchmap.jp/TShimoda>
Twitter：https://twitter.com/tshimoda_jp
note：https://note.com/tshimoda_jp/

生年月日：1964年（昭和39年）10月14日

出身地：鹿児島県

学歴：1983年3月 ラ・サール高等学校卒業、同年4月東京大学入学（文科一類）
1989年3月 東京大学法学部卒業
1995年3月 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了（現代経済専攻）

職歴：

1989年4月	日本銀行入行
2001年1月	国際決済銀行（BIS）派遣
2003年2月	信用機構室調査役
2004年7月	金融市場局企画役
2005年7月	金融研究所企画役
2007年7月	金融機構局企画役
2008年11月	金融機構局国際担当総括
2010年7月	国際通貨基金（IMF）日本代表理事代理
2013年7月	松山支店長
2015年6月	企画局参事役
2017年6月	企画局審議役
2018年6月	一橋大学国際・公共政策大学院特任教授

職務上の主な業績：

- ・ 日銀で、①金融政策（イールドカーブコントロールなど「異次元緩和」を企画・立案した企画局の国際関係統括審議役として、金融市場とのコミュニケーションやFRBやECBなど主要海外中銀や国際機関との調整を統括）、②金融規制（「バーゼル3」や「国債への資本賦課」など重要な国際交渉で日本当局を代表して交渉）、③決済・金融市場インフラ（国内外の決済プロジェクトに参画、国際基準の策定にも主導的役割）といった幅広い政策分野の第一線で実績を積み上げ。
- ・ 豊富な国際交渉経験、国際的な政策決定プロセスに精通。国際金融の最前線であ

る IMF（国際通貨基金）や BIS（国際決済銀行）で政策決定に直接関与する重要ポストを歴任。日銀でも 90 年代半ばから 30 年近くの国際交渉経験を持ち、FRB や ECB などの海外中銀や国際機関および G プロセス（G7、G10、G20）の政策決定プロセスを熟知しているほか、海外要人とのネットワークを確立。

- ・ メディアでも積極的に発信。Nikkei Financial では連載（「Global Policy Watch」）を持ち、CBDC、金融規制、デジタル戦略、気候変動など幅広いテーマで論考を寄稿。金融財政事情など金融専門誌でも日銀や FRB の金融政策や地域金融のあり方などについて精力的に寄稿。日経、Financial Times、Bloomberg、Reuters などにコメントが掲載。

業績の具体例：

金融政策・市場とのコミュニケーション

- ・ イールドカーブコントロールや ETF の買い入れなどの異次元緩和を企画・立案した企画局で国際関係統括審議役として、金融市場や海外中銀・国際機関とのコミュニケーション戦略を統括（2015～18 年）：FRB や ECB など欧米アジアの主要中銀の金融政策担当幹部と定期協議。BIS や OECD の政策担当者会議に日銀代表として参加。主要ヘッジファンドとの定期対話（ニューヨーク、ロンドン、香港、シンガポール等で実施）など市場との対話強化に尽力。
- ・ FRB や ECB の金融政策分析（2015～18 年）：政策担当幹部との対話を通じて政策の判断ポイントや市場コミュニケーション戦略、出口戦略を分析、日銀の金融政策運営に反映。

金融規制

- ・ グローバル金融危機に対応した「バーゼル 3」などの金融規制の国際交渉に国際担当総括として日本当局の主要交渉官の立場で参画、取り纏めに尽力（2007～10 年）：特に巨大金融機関の「大きくてつぶせない（Too Big To Fail）」問題に対応した規制資本の損失吸収力の強化（「普通株式等 Tier1」の創設）、クロスボーダー一銀行破綻処理枠組みの整備、「影の銀行部門（shadow banking）」を封じる規制範囲の拡大、マクロプルーデンスの政策ツールの設計等の交渉を担当。
- ・ 国債への資本賦課をめぐる国際交渉で当初の劣勢を粘り強い説得で逆転（2015～17 年）：欧州債務危機を教訓に国債の信用リスクを認識し資本賦課を主張する欧州勢に対し、金融市場や金融政策運営に与える影響の大きさを指摘、賛同国を増やしながら議論を主導、当初の劣勢を覆し日本の主張どおりに決着。

決済・金融市場インフラ・Fintech

- ・ 金融資本市場の国際基準作りの主要メンバーとして議論を主導、報告書を執筆（2001～05 年）：BIS が証券監督者国際機構（IOSCO）と合同で金融資本市場の国際基準策定のために設置した作業部会の取り纏め責任者として「証券決済シス

テムのための勧告」「清算機関のための勧告」の報告書を執筆。

- ・ 国内外の決済プロジェクトに構想段階から参画、複雑な利害調整を乗り越え実現（1997～2001年、2003～05年）：外為決済リスク削減のためのCLS銀行の設立、証券の無券面化や証券決済機関の再編、日本国債清算機関（JGBCC）の制度設計やリスク管理体制の構築を主導、複雑な利害調整を乗り越え実現に導く。
- ・ 中銀デジタル通貨（CBDC）やFintechの最新の動向について、アジアの中央銀行に政策助言や講演を実施。

国際金融

- ・ 豊富な国際交渉経験、国際的な政策決定プロセスに精通：IMF日本代表理事代理（Alternate Executive Director）として欧州債務危機（ギリシャ等の救済プログラム、ユーロ圏の銀行同盟・財政統合）やグローバルな金融規制強化が主な政策課題であったIMFの理事会で活発な議論を展開（2010～13年）。また、90年代半ばから20年超に亘って金融政策、金融規制、金融資本市場、決済、法制度など幅広い分野で国際交渉を経験、Gプロセス（G7、G10、G20）や国際機関（IMF、BIS、OECD）の政策決定プロセスを熟知。
- ・ アジアの中銀に政策を助言（2018～21年）：フィリピン、ベトナム、ミャンマーなどアジアの中銀幹部に金融政策の枠組み改善、中銀デジタル通貨（CBDC）やFintechの政策立案などを助言。グローバル経済や金融資本市場動向を講義。

発表論文等：

- ・ 「あらためて考える日銀ETF買い入れの意義と出口戦略」（「金融財政事情」2021年8月17日号）
- ・ 「銀行のAI融資、早くも規制論 活用メリットあるか」（Nikkei Financial 2021年7月15日）
- ・ 「日本版『地域再投資法』で地銀再編と地方創生の両立を図れ」（「金融財政事情」2021年5月4日号）
- ・ 「バイデン政権、環境・格差是正へ銀行規制強化」（Nikkei Financial 2021年3月5日）
- ・ 「コロナ下の銀行規制、備えの薄い日本にリスク」（Nikkei Financial 2021年2月19日）
- ・ 「CBDC覇権（下）：金融力底上げにとどまらない議論を」（Nikkei Financial 2020年11月4日）
- ・ 「CBDC覇権（中）：中国、ベールの陰で巧みな戦略」（Nikkei Financial 2020年10月27日）
- ・ 「CBDC覇権（上）：ECBに存在感、FRBなお慎重」（Nikkei Financial 2020年10月21日）

- ・ 「『最大雇用』の実現に軸足を置いた FRB の金融政策新指針」（「金融財政事情」2020 年 10 月 5 日号）
- ・ 「政府・日銀一体となった持久戦覚悟の企業金融支援策」（「金融財政事情」2020 年 6 月 8 日号）
- ・ 「日銀は『ブラック・スワン』に先回り対応せよ」（「金融財政事情」2020 年 3 月 16 日号）
- ・ 「マイナス金利を深掘りしなくても YCC の『改善』で緩和強化できる」（「金融財政事情」2019 年 10 月 21 日号）
- ・ 「システミックに重要な金融機関を巡る国際的な議論」（「金融財政事情」2010 年 2 月 8 日号）
- ・ 「プロシクリカリティを巡る国際的な議論—将来の危機再発防止のためバランスのとれたパッケージづくりが課題」（「金融財政事情」2009 年 3 月 23 日号）

対外的な役職等：

- ・ IMF 日本代表理事代理（Alternate Executive Director for Japan）
- ・ バーゼル銀行監督委員会（BCBS）主要部会（Definition of Capital, Cross-border Bank Resolution, Capital Monitoring など）メンバー
- ・ Joint Forum（銀行・証券・保険規制当局の横断的協議体）メンバー
- ・ CPSS-IOSCO Joint Task Force Secretariat およびメンバー
- ・ BIS 金融政策担当者会議メンバー
- ・ OECD 経済政策委員会（EPC）メンバー、金融政策担当者会議メンバー
- ・ Quadrilateral Conference（日米欧英金融法委員会の協議体）メンバー
- ・ 大阪証券取引所「清算機関を兼ねる上場取引所のキャッシュ・マネジメントのあり方に関する諮問委員会」委員

以 上